

## 事業名：大麻地区住環境活性化事業

政策推進課 参事（住環境活性化・公共交通）

政策	04 安全で快適な都市生活の充実								
施策	04 市街地整備の充実								
基本事業	02 計画的な土地利用の推進								
開始年度	平成22年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

<b>事務事業の目的と成果</b>	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
大麻地区	
手段（事務事業の内容、やり方）	
都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、北海道型・高齢者が住みやすいまちづくり構想などのほか、大麻団地まちづくり指針に沿う住民主体のまちづくりを進める。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
高齢者を含む多様な方々にとって住みやすい住環境等の整備などを通じ居住者等の満足度を高める	

<b>指標・事業費の推移</b>						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	大麻地区の面積	Km <sup>2</sup>	11.45	11.45	11.45	11.52
対象指標2						
活動指標1	大麻・文京台まちづくり推進会議等の開催回数	回	1	7	3	—
活動指標2						
成果指標1	やすらぎ・生活機能が整っている「まち」と感じる割合	%	66	69	69	—
成果指標2						
事業費(A)		千円	0	17	3,149	4,334
正職員人件費(B)		千円	2,007	9,619	9,376	9,389
総事業費(A+B)		千円	2,007	9,636	12,525	13,723

	<b>事業内容（主なもの）</b>	<b>費用内訳（主なもの）</b>
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会開催</li> <li>・相談窓口運用</li> <li>・講演会開催</li> <li>・ワークショップ開催等</li> </ul>	講演会、ワークショップ開催等委託経費 3,149千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大麻団地まちづくり指針」に沿った住民主体のまちづくりを展開する。</li> </ul>	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年10月、大麻団地住環境活性化調査研究会から、市長に「大麻団地まちづくり指針」を大麻のまちづくりの道標として活用すべきとの提言があった。</li> <li>・平成22年度には、上記調査研究会の住民組織により、「大麻・文京台まちづくり推進会議」が発足した。</li> <li>・平成24年度には、住みかえ等に関するアンケート調査、セミナー、相談会等を実施した。</li> <li>・平成25年度には、「江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会」が発足し、住まい相談、講演会、ワークショップ等を実施した。</li> </ul>	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由根拠 大麻団地は開発造成後40年を経過した今、空家、空地、空店舗なども多くなり、住環境等の悪化が懸念されるほか、高齢化も進行していることから、都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、北海道型・高齢者が住みやすいまちづくり構想、大麻団地まちづくり指針などに沿ったまちづくりを進めることは大変重要である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由根拠 都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、北海道型・高齢者が住みやすいまちづくり構想、大麻団地まちづくり指針などに沿ったまちづくりを進めることが、既成市街地の計画的な土地利用の促進等につながり、大麻団地の住環境の活性化を図ることができる。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由根拠 大麻団地住環境活性化調査研究会等で大麻団地の住環境に関する諸調査を実施しながら、団地の課題、問題点等の把握等を行い、大麻団地まちづくり指針を作成した。同指針は各種の整備事業等を段階的に官民協働で実施していくことを想定しているが、平成24年度は国の補助金を活用し、推進会議が中心となり、石狩振興局や市とも連携して、セミナーや相談会の開催、住みかえアンケート調査などを実施し、平成25年度には、運営協議会が発足し、住まい相談、講演会、ワークショップ等を実施した。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由根拠 大麻団地住環境活性化調査研究会等で大麻団地の住環境活性化に向け大麻団地まちづくり指針を作成した。その後は、同指針に基づき各種の整備事業等を段階的に官民協働で実施していくことを想定しているが、引き続き国の補助金を活用し、関係団体などと連携して事業を実施する予定であることから、その実施結果により成果向上の余地はある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由根拠 大麻団地まちづくり指針などに基づくプロジェクトを推進するために、国の補助金を活用し、コスト削減を図っている。